

2017年12月28日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部  
実践「ペルソナ」研究会

## 実践『ペルソナ』通信 「実践女子大生における制汗剤の使用実態」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「実践女子大生における制汗剤の使用実態」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は100サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学担当:竹内光悦」、「経営学担当:篠崎香織」、「マーケティング担当:斎藤明」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

### 総括

毎年新商品が出る制汗剤業界に対して、女子大生はどのような意識を持って製品を求めているのか、実践女子大学の渋谷キャンパスに所属する学生に対してB面から立てた3つの仮説をもとに、現在使用している制汗剤の意識について調査票調査で100名に回答を得た。

その結果、仮説が検証されたものと検証されなかったものにわかれた。検証されなかった「制汗剤のタイプ」については人と人数に差が出たためだと考える。一方で「香り」「使用している場所」は、検証することができた。またその他の質問事項の結果として、現在使用している人の94%が満足していることがわかった。利用シーンとして、「汗をかいたとき」に主多く、この影響か制汗剤の使いやすさについて尋ねたところ、どの種類にも「持ち運びやすさ」が1番となっていた。一方で特徴でもある、「音がでる」や「ごみが出る」ことが使いにくさに上げられていた。また買っての良い値段は「400～500円」周辺ということがわかった。

以上から、今後新制汗剤を発売するに当たって、現在満足している商品から使いにくさをいかに軽減させて、目を向けさせるのかがポイントとなってくるだろう。

### 調査結果のポイント

#### 仮説検証

##### (1)女子大生の多くはスプレーを使用している→検証されていない

B面から各使用率は、スプレー40%、シート33%、液体15%、ロール13%(四捨五入したためここでの合計は101%となる)とスプレータイプの所持率が多いことがわかった。ここから女子大生の多くがスプレーを使用していると仮定して、「主に使用している制汗剤の種類について」調査した。結果として

70 人に調査したところ、「シート」54%、「スプレー」21%、「ロール」9%、「ウォーター」9%、「ミスト」4%、「スティック」3%となり、シートが1番でスプレーは2番目に多いという結果になった。ここからわかるように、持っている制汗剤はスプレーの方が多いかも知れないが、実際に使用されている制汗剤の種類はシートという結果になった。

### (2) 香りつきを使用している→検証された

B面から使用している制汗剤の香りは無香料が7%、香りつきが93%であった。また、その中でも25%の人が「石鹸」の香りを一番多く使用していることが分かった。ここから女子大生は制汗剤には香りつきの物を多く使用していると仮定し、「現在使用している制汗剤の香り」について調査した。結果として「石鹸」は29%、「シトラス系」は25%、「無香料」が19%と続いていた。ここから分かるように、やはり一番の人気は「石鹸」のにおいて、「ローズ系」など甘い香りよりも、清潔・爽やかな香りが好まれているようだ。また、この調査では「無香料」を使用している人が19%と3位であり、予想したよりも多く使用している人がいると分かった。

### (3) 「家と外の両方」で使用している人が多い→検証された

B面から読み取れたことから、家庭用と持ち運び用があると仮定して「制汗剤を主にどこで使用しているのか」調査した。70人に調査したところ、「外」が32%、「家」が24%、「家と外の両方」が44%との回答があった。ここからわかるように、「家と外の両方」の場所で使用している人が多いため、家庭用と持ち運び用があるという結果になった。

その他のまとめ

### (4) 女子大生は6月の段階で7割もの人が制汗剤を使用している。

調査時期は6月であったが、制汗剤を使用している実践生は70%もいることがわかった。しかし、同時に30%の学生が使用していないこともわかった。6月とはいえ汗ばむ時期であるので、8割を超すと考えていたが、予想を下回ったという結果となった。

## 調査結果について

### 調査概要

調査対象	実践女子大学渋谷キャンパス在学生
調査方法	調査票調査
調査期間	2017年6月26日~2017年6月31日
有効回答数	100人
回答者の属性	【学年】1年生:19% 2年生:25% 3年生:56%

## 本調査担当チーム

実践「ペルソナ」研究会

3年 長田里菜

3年 川俣理沙

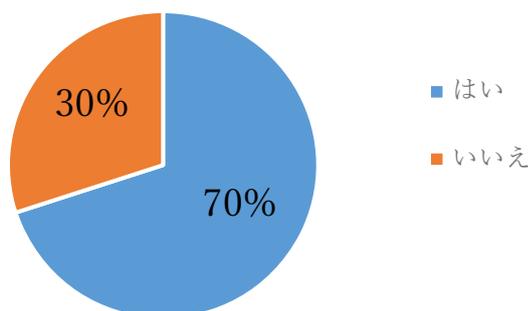
3年 高橋有里沙

3年 大堂愛花

### (1)使用率 70%

女子大生に現在制汗剤を使用しているか尋ねたところ、「はい」と答えた人は70%で「いいえ」と答えた方は30%でした。女子大生なので8割を超すと予想していたが、調査時期が6月だったことと設問内容が「現在」と付いていたために7割で留まったと考える。しかし、7割の方がこの時期にすでに使用していることがわかった。

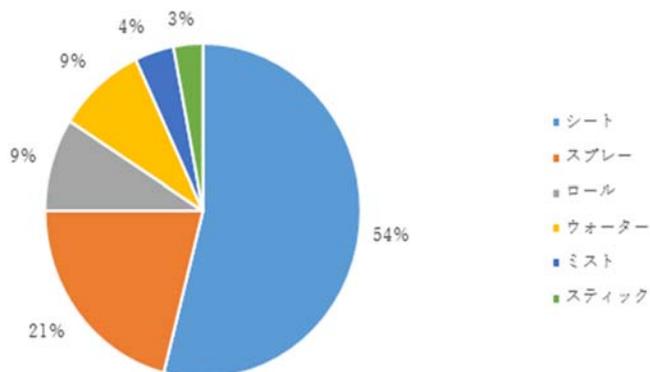
図1. 女子大生の制汗剤の使用率 (N=100)



### (2)「シート」が人気

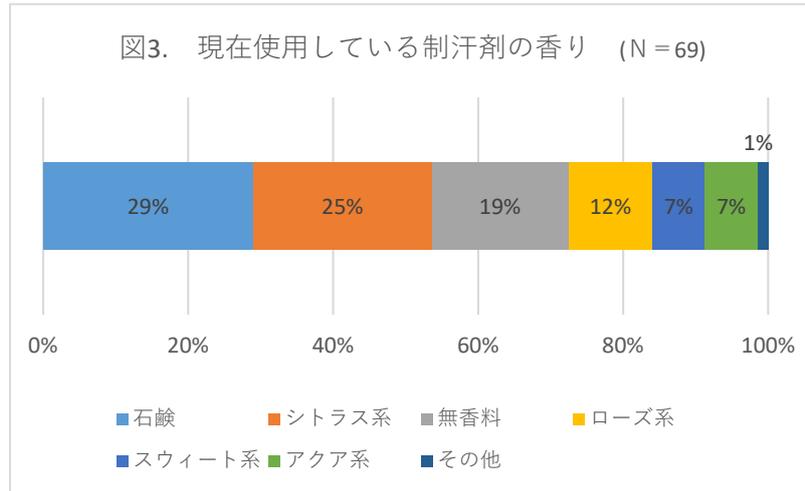
女子大生に主にどのような種類の制汗剤を使用しているか尋ねたところ、「シート」54%、「スプレー」21%、「ロール」9%、「ウォーター」9%、「ミスト」4%、「スティック」3%だった。シートを使用している人が一番多く、その次にスプレーを使用している人が多いということがわかった。

図2. どのような制汗剤を使っているか(N=70)



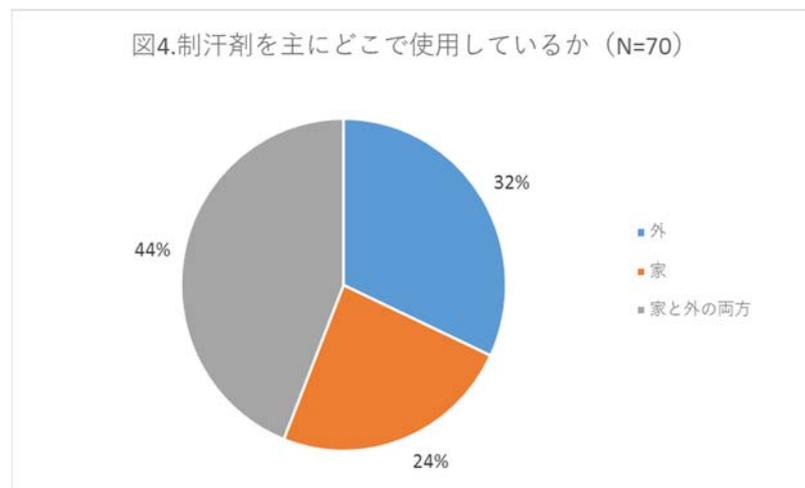
### (3)「石鹸」の香りが多い

制汗剤を使用している女子学生に対してどのような香りを使っているのか尋ねた。「石鹸」は29%、「シトラス系」は25%、「無香料」が19%と続いていた。また、そのあとは「ローズ系」が12%、「スイート系」と「アクア系」が同率で7%であった。結果からわかるように「石鹸」「シトラス系」「無香料」などの3種類が多く好まれているようだ。また、「その他」には「かしき」との回答があった。上位3つは、どの企業でも出している香りなのでやはり人気があることがわかった。



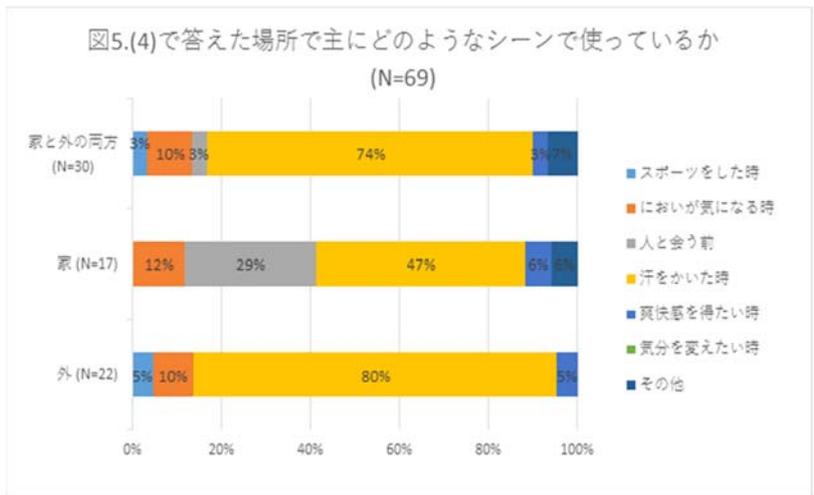
### (4)使用場所は「家と外の両方」

(2)で答えた制汗剤を主にどこで使用しているかを尋ねたところ、「外」32%、「家」24%、「家と外の両方」44%だった。家と外の両方で使用していると答えた人がやや多いということがわかった。



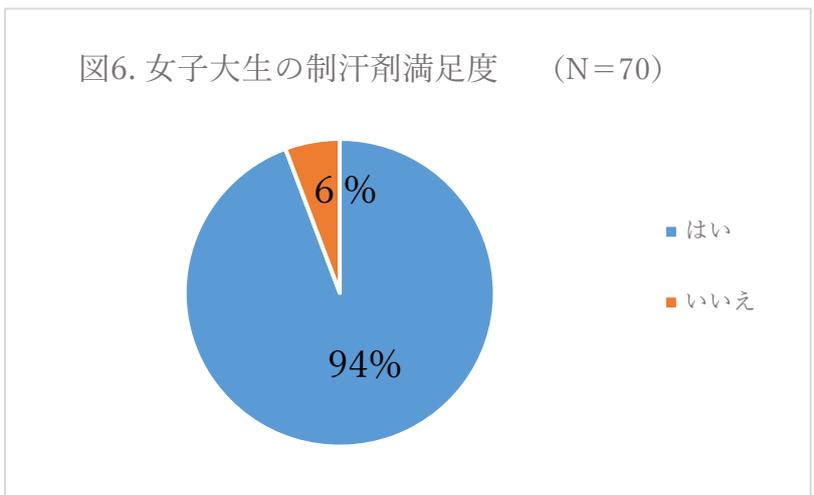
**(4,1) 「汗をかいた時」利用している**

(4)で答えた場所で主にどのようなシーンで使用しているかを尋ねたところ、1人未回答であっても「汗をかいた時」がどの場所でも答えた人が一番多いということがわかった。また、それぞれの場所で制汗剤を使用しているシーンは、ほぼ同じ人数であった。「気分を変えたい時」と回答した人はいなかった。その他については、「汗をかく前、汗を抑えるタイプを使用する」「におい対策」「出かける前」との回答があった。



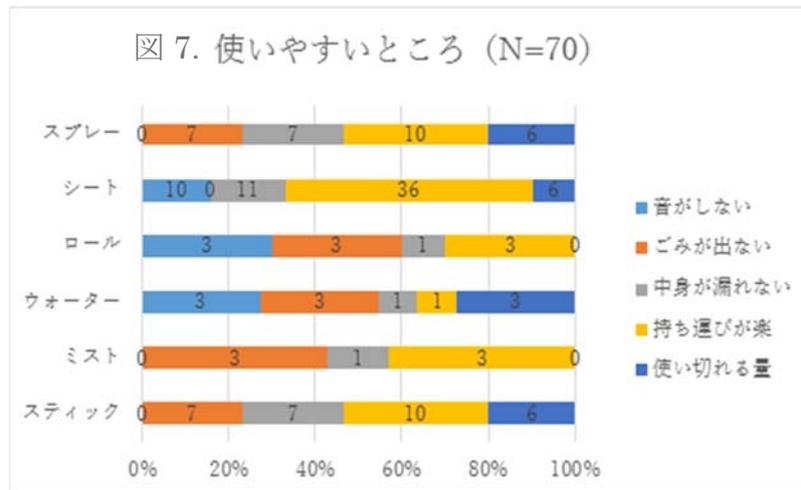
**(5) 現在のもの満足している人は94%**

女子大生に現在使用中の制汗剤に満足しているか聞いたところ、94%の方が満足しているとの回答があった。満足していない方も、6%見受けられるが少数派であることがわかる。このことから、続々と新製品が売り出されているが、女子大生は現在のものに満足している為にいかにも目を向けさせるのかという顧客の奪い合いが激しいということがわかった。



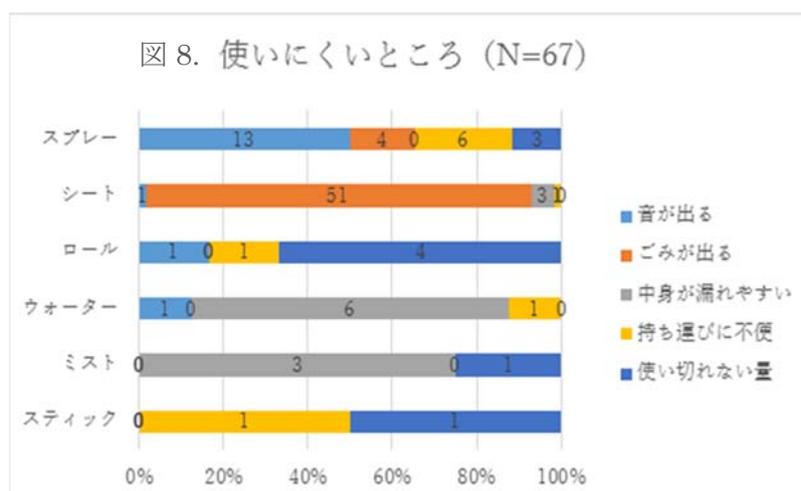
## (6) 「持ち運びが楽」がポイント

(2)で答えた制汗剤の使いやすいところを尋ねたところ、スプレーとシートの場合「持ち運びが楽」と答えた人が多かった。ロールの場合「音がしない」「ごみが出ない」「持ち運びが楽」と答えた人が同じ割合であった。ウォーターの場合「音がしない」「ごみが出ない」「使いきれの量」と答えた人が同じ割合であった。ミストの場合「ごみが出ない」「持ち運びが楽」と答えた人がともに同じ割合であった。スティックの場合「持ち運びが楽」と答えた人が若干多かった。このことから、制汗剤の種類によって使いやすいところが変わってくるのがわかった。



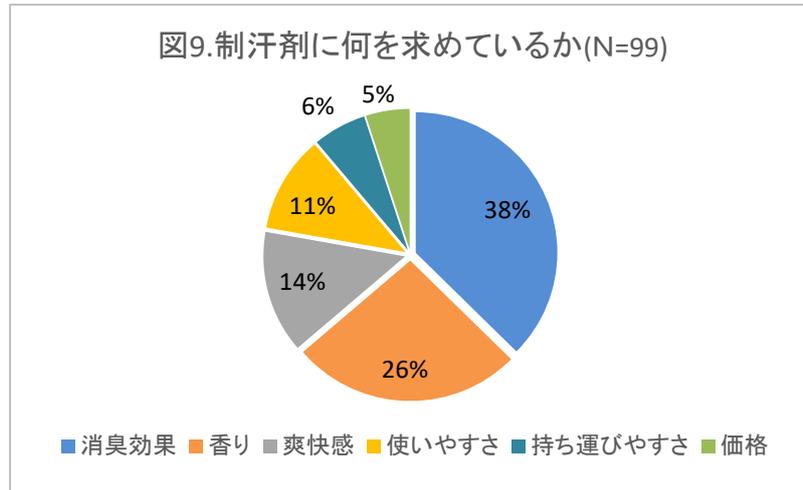
## (7) 使いにくいところは様々

(2)で答えた制汗剤の使いにくいところを尋ねたところ、スプレーの場合「音が出る」と答えた人が一番多かった。シートの場合「ごみが出る」と答えた人が圧倒的に多かった。ロールの場合「使いきれない量」と答えた人が一番多かった。ウォーターとミストの場合「中身が漏れやすい」と答えた人がともに一番多かった。スティックの場合「持ち運びに不便」「使い切れない量」と答えた人が同じ割合であった。無回答の人は 3 人であった。このことから制汗剤の種類によって不便と思われる事柄が変わってくるのがわかった。



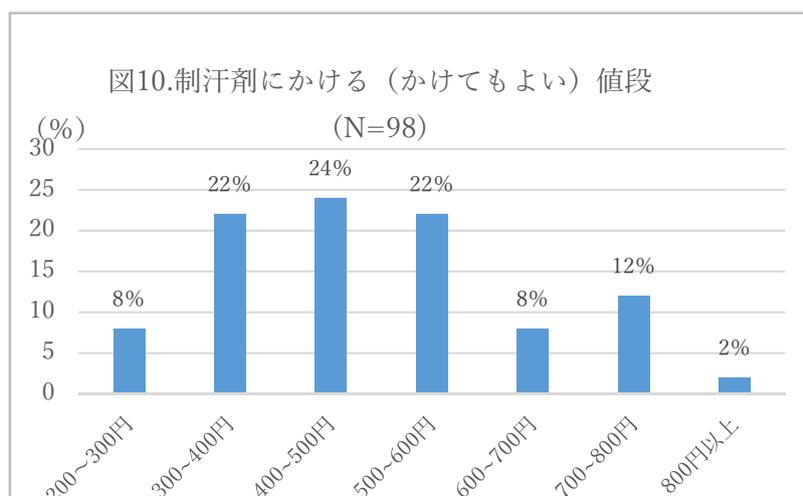
### (8) 「消臭効果」は大事

あなたは制汗剤に何を求めていますかと尋ねたところ、「消臭効果」と答えた人は 37%、「香り」と答えた人は 26%であった。また、「爽快感」と答えた人 14%は、「使いやすさ」と答えた人が 11%、「持ち運びやすさ」と答えた人が 6%であった。また、「価格」と答えた人は 5%であった。このことから、女子大生は今後、制汗剤に消臭効果や香りを求めていることが多いことから、自分の匂いを気にする傾向が高く、その効果を求めていることが多いことが分かった。



### (9) 「300~400円」が妥当

あなたが制汗剤にかける（かけてもよい）値段はいくらですか、と尋ねたところ、一番多い項目は「400~500円」で 24%であった。また、「300~400円」、「500~600円」が 22%で同率 2 位であった。続いて、「700~800円」と答えた人が、「200~300円」と「600~700円」が、「800円以上」と答えた人が 2 であった。



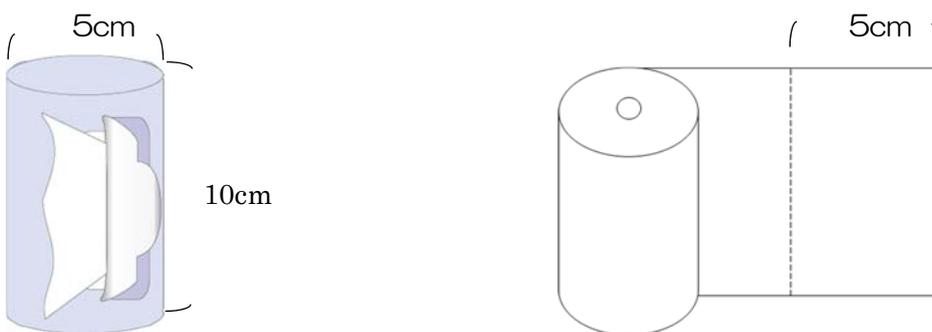
## 今後の制汗剤について提案

今回の調査で実践女子大生は現在使用している制汗剤は、シートタイプが多く、満足している人が94%もいることがわかった。そこで利用者の「シートタイプ」が多いことからシートタイプの良い所を残し、「ごみが出る」ことに困っていることを踏まえて、「流せるシートロール型」を提案する。これは、従来のシートタイプの容器の中に、トイレットペーパーのように巻いた形のことだ。

この商品の特徴として、4つある。1つ目は、「ごみが出る」を解消するために、使用後水に流せるようにすることで「ごみ」の問題を解消したことだ。こうすることでお手洗いにいった際に、気軽に流すことができる。そして2つ目は、利用シーンが「汗をかいたとき」ということで、1枚では足りないということが起きているのではないかと予想し、従来のシートのように1枚1枚分かれているのではなく、自分で割くタイプにしたことだ。1枚という概念を捨てることで、「足りない」「多い」と思うこともなくすことができる。3つ目として、ロール状にする事でシート同士の密着度が高くなり、最後の方になると乾くという減少を軽減する。4つ目として、容器が今まで通りのビニールタイプなので、企業にとっても形を変えるだけなので導入しやすいということだ。また調査で「使いやすい所はどこですか」という質問に、「持ち運びやすい」と答えた学生が多いことから「使うほどに小さくなる」というシートタイプの容器は受け入れられやすいだろう。

この商品を売り出すのであれば調査から得られた結果より、香りは「石鹸・シトラス系・無香料」の3種類で消臭効果に優れているものであり、値段は400~500円程度。長さは現在売られているシートタイプを参考に可能であれば5mを考えている。また水に流せるとはいえど、使う場所が流せない時を想定して、最初のみ収納ケースを付属品としてつける事を考えている。

(イメージ図)



以上が「実践女子大生における制汗剤の使用実態」調査チームの、調査結果と提案である。